

2

Detached house

南北約29mのビルを
住まいにコンバージョン

H Residence Chuo-ku, Osaka

Architecture : 田頭健司建築研究所

Photographs : Nacasa & Partners

Text : Michiko Nakahata



大阪・中央区に立つH邸2階のリビング(CH2400mm)から、北側のダイニングとキッチンを見る。南北に連行きの建物の形状を生かして、リビングとダイニングを直線上にレイアウト。間にBe Conceptのシェルフ「Dcca」(W1500mm×D340mm×H1095mm)を配して緩やかにスペースを分けた。ソファは同ブランドの「GESTO」(W2360mm×D1040mm×H770mm/SH350mm)のレザー張りをセレクトし、無垢マツ材の一枚板を用いたコーヒーテーブルは特注。IKEAで購入したボルドーのラグを合わせた。西側壁面には収納を造作し、リビング跡面はコテ仕上げの集合いを持つペーシェーションの左官材塗り、そのほかの壁面はEP造法に、床は「アンティーク風の濃い色合いの素材」という夫妻の希望で無垢のクリ材フローリング貼りに、収納扉や引き戸は、フローリングの色調に合わせてエグジーの柱目調の強い木目柄が美しいポリエステル化粧合板で統一。ダイニング北側は開口(W4375mm×H2000mm)を隔ててセツガンパツ材貼りのデッキテラスと、階段の下の芝生敷きの庭につながり、多忙な夫が休日や朝にくつろぐスペースになった。庭の奥側に見えるのはシアタールーム



大阪市内でも有数の文教地区である静かな住宅街。その一角に、美しい連子（れんし）をまとったRC造地上4階建ての住宅が現れる。そこには、かつて築40年を越す住居兼オフィスビルだった気配は感じられない。

希望に合う土地と敷地面積を持つこのビルに出合ったオーナーは、住宅へのコンバージョン（用途変更）の可能性を探るため、建築家とのネットワークを持つ施工会社を通じて、建築家の田頭健司さんに依頼。調査の結果、構造は配管で問題ないことが分かり、計画に着手した。隣によっては細かく仕切られていて使いにくい点はあったものの、「階段が各階の東側に集まり、生活空間を再構築しやすい」と田頭さん。4フロアに異なる役割を与え、室内の間仕切り壁を部分的に取り払って広いスペースを確保し、内装を上質な雰囲気へと一新すると共に、4階部分はルーファードランやバスコートを設けることに。オーナーが希望する広いガレージやシアタールーム、開放的なバスルームを包摂する4階建て住宅への大規模なコンバージョンがスタートした。

建物は、開口約7m×奥行約29m、最高高さ14.35mの南北に細長い形状。周辺にはマンションが立ち並んでいるため、住宅に変更するうえでプライバシー対策が課題となった。そこで、道路に面する南側のファサードに、セランガンバツ材でつくった連子を設置。周囲の視線を遮りながら、室内に光を届ける工夫がなされた。縦の連子と横の連子をランダムに組み合わせることでファサードにリズムをつくり、軽やかな印象に仕立てている。

かつて倉庫として使われていた窓のない1階は、最大で9台駐車できる奥行き26.5mのガレージとエントランスに変更。北側に小さな光庭をつくってモジを植え、有機的なシルエツトと光の演出によって、広く明るい空間の緊張感を和らげた。2階は、中央のテラスを挟んで南側に事務室や応接室が配置されていた約105㎡の部分と、北側に約17㎡の倉庫がつくられていた。田頭さんはテラスの存在を生かすと共に南側のバルコニーを広げて、南北から光をとり込む住まいのメインフロアと位置つけた。



上/ダイニング(CH2400mm)には、以前の住まいから使用しているレザーチェアに合わせてACTUSのテーブル(REN DINING TABLE)(W2500mm×D1000mm×H720mm)を選んだ。ペンダントライトは建築家の田頭健司さんのデザイン。VAOプレース+藝堂商店にオーダーし、テーブルに合わせて異なる色の緋製パネルを組み合わせた。正座は造作壁面収納(W4000mm×H2400mm)左翼/キッチン東側壁面を収納とし、アイランド型カウンター(W3500mm×D250mm×H1100mm)を配して、リビングやダイニングから手元が見えないよう配慮した。バーカウンターのように使用できる高さ1100mmに設定し、天板に無垢のマチガニ材。面材に名古屋モザイク工業の濃い紫のモザイクタイルを貼り、落ち難い雰囲気のためにアクセントを添えた。レンジフードはアリアフィナーの「CFED-951S」。北側の開口越しにテラスを眺めながら料理を楽しむ。



上/2階の南側は、バルコニー(CH2400mm)を拡大。開口(W3800mm×H2200mm)のサッシ枠を床面に埋め込むことで室内外をフラットにつなげ、バルコニーをリビングの延長としてフレキシブルに使える空間とした。イスとテーブルを配し、傍らには鉢植えのシマトネリコをレイアウト。南面の外壁に設置した濾子越しに、木漏れ日のように柔らかな影が落ちる。室内に置いた葉の大きなオーガスターが伸びやかさを演出

左頁/以前は倉庫だった2階北側のシアタールーム(CH2400mm)から、テラス越しにダイニングを望む。家族共通の趣味である音楽を楽しむこの部屋は、生活スペースから離れた非日常空間。青い空が広がる庭(6100mm×5310mm)が、2階であることを忘れさせる。窓際には、Le Corbusierデザインのシェーズロング[LCA]を配した。セラランパンパツ材貼りのテラスは、風と光を感じながら過ごすアウトドアダイニングとしても活躍



室内は開仕切りを取り払って67.60㎡のワンルームとし、リビングとダイニングキッチン、レイアウト。キッチンは、幅3500mmのアイランド型カウンターに濃い紫色のモザイクタイルを貼って、家具のような存在とした。ダイニング側はバーカウンターとしても使用できるよう高く設定して、天板には風合いある無垢のマーガリー材をセレクト。床はアンティーク調の無垢のクリ材フロリング貼り、リビングの壁面は三仕上げの風合いを持つベリリュートンの左官塗りとし、収納扉や引き戸には、垂直方向の溝い木目柄が印象的なポリエスチル化粧板を採用。上質さを演出する素材を選び、無機質だった空間に豊かな表情を生んだ。

2階中央のテラスは、バーベキューを楽しむサンガンハツ材貼りのデッキと、青々とした芝生敷きの庭に繋ぎ、北側の倉庫だったスペースは、家族が趣味の楽器演奏や賞品鑑賞を楽しむための空間に生まれ変わった。日常と非日常を行き交いするような楽しみをつくり出している。空に開きながら周囲を壁で囲まれたテラスは、視線を気にすることなくリラックスできる。かつて住居スペースだった3階は、細かな間仕切り壁を取り払い、主寝室と書斎、子ども部屋と、プライベート空間を集約。主寝室は西側壁面の一部をポルドルーのシルクロース、それ以外の壁面をグレーのクロス貼りラグジュアリーな色調に仕立てている。広い床面積を生かし、収納スペースも豊富に計画。主寝室脇のウォークイン・クローゼットや廊下の収納、4階の納戸など、約60㎡を確保した。

最上階である4階は、ルーフガーデンをデザインして緑が揺れる開放的な空間に。夫が希望した光が降り注ぐバスルームは、西側に約4.5m×2.5mのバスコートを隣接させ、開口を開け放せば、住宅街の中にありながら開放的なバスタイムを楽しめる。

4つのフロアに新たな役割を与え、ゆとりある面積を確保したうえで、ガレージやシアタールーム、テラス、明るいバスルームなど暮らしを彩る要素を散りばめたH邸。既存の構造を生かした豊かな生活空間が生まれた。

上ノ1階南側のエントランス(CH2250mm)。引き戸の奥に北側ガレージのポルシェが鮮やかにのぞく。フォーマルなエントランスである左手の引き戸と、ガレージへの動線となる正面の引き戸を使い分けている。左手側の壁面にはすりガラスを用いて、光をとり込んだ。右手に大型のシューズクローゼット(W3780mm×D450mm×H2000mm)を造作し、扉はリビングやダイニングと同じポリエスチル化粧板で仕上げた。足元を300mm浮かせて軽やかさを演出。下ノかつて倉庫だったコンクリート打ち放しの1階(CH3500mm)をガレージに。オーナーが所有するポルシェ「911GT2」(右)やフェラーリ「F430スパイダー」(左)を始め最大9台を駐車できるガレージは、入り口に既存の手動シャッターに加えて電動シャッターを新設し、セキユリティーに配慮。

左ノ1階ガレージ北側に設けた光庭を見る。コンクリートの内壁の開口をフレームに見立て、庭を切り取って1枚の絵のように見せた。上部が吹き抜けのためモミジが風にそよぎ、光が差し込む様が硬質なガレージの印象とコントラストを描く。





DATA

- ①PORCH
- ②ENTRANCE
- ③ENTRANCE HALL
- ④TOILET
- ⑤GARAGE
- ⑥CORRIDA
- ⑦HALL
- ⑧LIVING&DINING
- ⑨KITCHEN
- ⑩TERRACE
- ⑪THEATER ROOM
- ⑫DRESSING ROOM
- ⑬MASTER BEDROOM
- ⑭STUDY ROOM
- ⑮WALK-IN CLOSET
- ⑯BEDROOM
- ⑰BALCONY
- ⑱UTILITY
- ⑲BATH ROOM
- ⑳GUEST ROOM
- ㉑STORAGE
- ㉒ROOF GARDEN
- ㉓VOID

構造と規模/RC造 地上4階建て
敷地面積/216.15㎡ 建築面積/172.20㎡
床面積/1階16.81㎡ 2階109.83㎡
3階97.57㎡ 4階49.96㎡ ガレージ153.32㎡ 合計427.49㎡
家族構成/夫(48歳) 妻(46) 長男(20) 長女(17)

※設計データは202頁に掲載



X-X' SECTION 1:400

右頁上/3階の階段から主寝室と書斎(共にCH2400mm)を見る。主寝室は壁面に貼った
ボルドーとグレーのクロスによりラグジュアリーな雰囲気に。イタリア製のクラシックな柄
のファブリックでロールスクリーンをつくり、絵画のように飾ることで既存の開口を覆って
いる。左手の夫の書斎には、書棚やデスクを造作し、機能的な空間に 右頁下右/右手
の開口から控えめな光がまわり込む。3階北側の主寝室と隣接した洗面室(CH2400mm)。
洗面カウンター(W2330mm×D600mm×H560mm)に置き型洗面器を2つ並べ、ミラーは
右手奥の引き違い窓とのバランスを考慮して円形をセレクト。洗面器は「BA-B504」。洗面
水栓は「BX-5256」で共にFONTE TRADINGの製品 右頁下左/4階のバスルームは、
床・壁共に900mm角の磁器質タイル貼りに。楕円形の置き型バス「M13」とハンドシャ
ワーは共にFONTE TRADINGの製品。隣接するバスコート(約4.5m×2.5m)は、セラ
ガンバツ材貼りの床面にサッシ枠を埋め込んで仕上げた。将来、屋外にジャグジー付きバ
スを設置できるよう、排水と止水栓を準備
左/開口約7m×奥行き約29m、最高高さ14.35mのH邸の南側外観。階高は1階4100mm、
2階3350mm、3階3515mm。セラガンバツ材の造りを縦横に組み合わせ、自然素材の優
しい表情を添えたファサードは、かつてRC造4階建ての住居兼オフィスビルだったことを
感じさせない。フィアット車がのぞく1階左手はガレージで、右手はエントランス。3カ所に設
けた開口部はそれぞれ形や位置が異なり、壁面にリズムをもたらしている。最上階ではルー
フガーデンの鮮やかな緑が揺れる

